

第3回編集委員会資料
8.3.27
事務局

第2回委員会の質問に対する事務局方針

No.	質問	回答
1	コラムの位置づけ	①本文同様に重視するがいわば「平成・令和版B面」という位置づけ。※B面は正史=A面に対して市民目線の市史の位置づけである。 ②市民目線での「平成・令和版」といった枠で考えている。 ③前回取り上げた例で各委員、概ね意識は共有されたかと思うが正史から落ちていく市民目線の項目を抑える役割をコラムに付与する。 ④I～IV章に散らして差し込む。(余白へ)
2	身分証の形態	調査時等の利便を考え、身分証(5.5×9.5)市役所職員と同様の首かけの形を用意する。(名刺適宜)
3	末尾の年表の扱い	①既に他の自治体誌で見られる巻末年表の役割を本文や図表が果たしているようであれば、巻末へ年表は掲載しない。 ②併せて明治以降から令和までをとりあげる総年表が本文中になれば末尾に掲載を検討する。
4	委員の執筆分担、時代ごとによっては偏りが大きい様に思うがいかが	委員の担当分野は目安、横軸で見ていくため地域、年ごと執筆者を割り振る形を考えている。
5	書式の考え方	①年、個数はアラビア数字(四桁は縦書きで標記)。固有名詞や町名(六九町)については漢数字。 ②現在においてアラビア数字縦書き適用のようにより良い表記方法が存在する場合はそれを反映。 ③平成の松本市史に依拠した記載の統一を図りたい。
6	各章のすみ分け	Iは市勢全体の総論、IIは地区各論、IIIは市政総論、IVは市民史総論の位置づけを考えている。